

最古の海鳥の謎をもとめて！ ～北米大陸の“失われた海”を発掘する～

自然・環境評価研究部 地球科学研究グループ

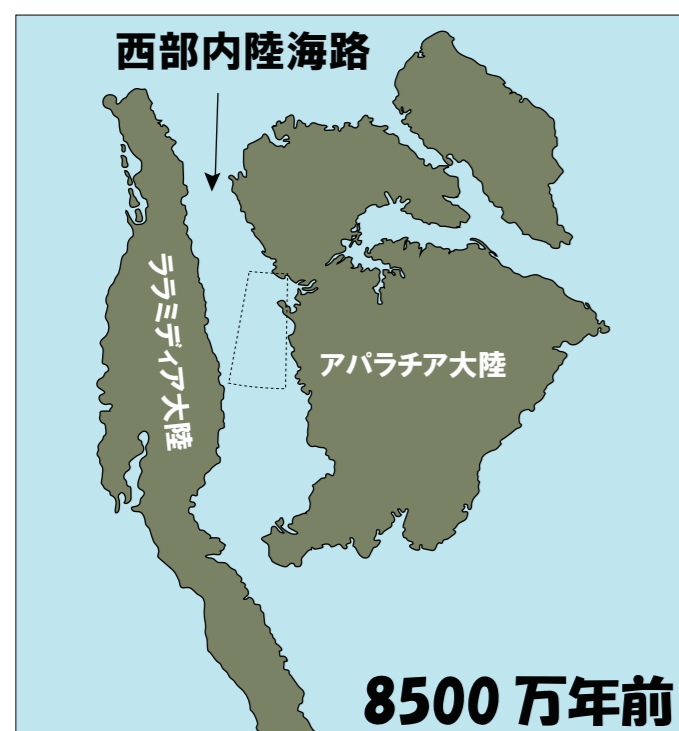
田中 公教



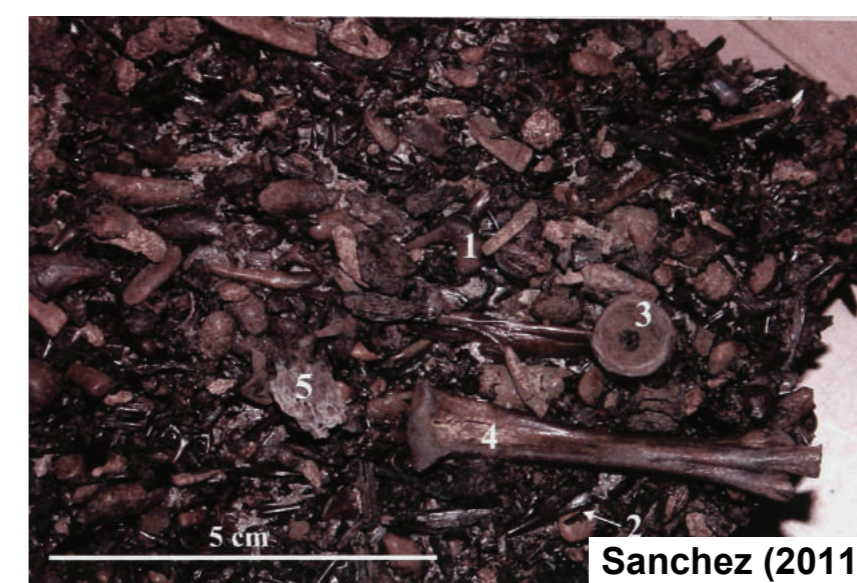
海鳥にはペンギンのように、飛ぶことをやめて潜水に特化する進化がみられます。彼らはどのような進化を経て、水中生活に適した体の形を獲得したのでしょうか？その謎を解く手がかりのひとつが、白亜紀の海鳥ヘスペロルニス類です。

北米大陸の“失われた海”、「西部内陸海路」

白亜紀中ごろは、地球の歴史のなかで最も海水準が高かった時代です。当時の北米大陸は「西部内陸海路」という海によって分断されており、この海は、白亜紀の終わりから古第三紀のはじめに消失しました。現代では、北米大陸の内陸部に残されたこの“失われた海”の地層から、たくさんの海鳥化石が見つかっています。発掘される海鳥化石のほとんどは、体長約1.5mまで大型化し、飛べなくなった進化型のヘスペロルニス類です。一方で、私たちが発掘調査を進めているカナダ・サスカチュワン州では、発達した翼をもつ原始的なヘスペロルニス類が見つかっています。私たちの研究によって、彼らがどのように飛行能力を失い、潜水に特化したのか、その進化の道筋が明らかになりつつあります。



(Blakey et al. 2005 をもとに作成)



魚類やクビナガリュウ、ヘスペロルニス類の化石。

